

平成二十八年・国指定重要民俗文化財

## 長崎くんち 今年のみどり(其の二十九)

越中 哲也

一、はじめに

長崎の氏神、長崎諏訪神社創立の事については、本会年刊誌「ながさきの空」に其の概要を連載してきたので御読み下さるとよい。長崎の氏神の秋の大祭の日を戦前までは「おくんち」と言ってきたが現在では「長崎くんち」と言っている。

「長崎くんち」の始まりは元和元年(一六一五)頃、唐津(佐賀)の人で山伏青木賢清が此の地に来訪した事に始まると記してあり、当時の長崎・大村の地は全てがキリシタンであり一切の社寺・佛教的墳墓に至るまで破かいされていたと記してある。

其の理由は、当時の領主大村純忠が、それまで松浦氏平戸の港に入港していた南蛮貿易船を領内の横瀬浦(西海市)に迎え入れるように企画した事に始まっている。その南蛮船の横瀬浦入港は永禄五年(一五六二)七月であった。その翌永禄六年には純忠は横瀬浦に教会を設立し、自らもトールレス神父の指導によって授洗し霊名をドン・バルトロメオと拝受している。それに引き続き二十五名の家臣達も洗霊を受けている。其の中の一人に長崎甚左衛門の名があり霊名はベルナルドと記してある。



明治十四年 本多鉄次郎  
鍛冶屋町傘鉾控

この長崎甚左衛門授洗の事は、やがて長崎の開港・長崎氏領内全てのキリシタン改宗となつてい。長崎氏領内のキリシタン布教については、一五六八年九月トールレス神父が口之津より、当時ポルト

ガル船の貿易港であった福田の港に行く途中、長崎に立ち寄っている。この事より神父は長崎布教の事も考えられ、之の年の末ガスパル・ヴィレラ神父を長崎布教に派遣されている。そして、一五六九年末には長崎甚左衛門はヴィレラ神父に教会に使用するようにと小さな寺を与えている。神父は「小さい教会ですが、楽しいです」と言っている。そして一五七一年春、はじめて南蛮船が長崎に入港してきた。

以来、熱心なキリスト教徒となつた大村純忠は長崎氏とも相談一五八〇年長崎(旧内町)茂木の地をイエズス会に寄進、次いで一五八四年には島原領主有馬晴信(霊名・アンドレ)も長崎浦上の地をイエズス会に寄進している。

この純忠を中心とした大村氏領内でも長与氏、早岐氏、針尾氏等は一揆を起し一五八六年には長与氏は唾飲城に立て籠つてい。一五八七年(天正十五)純忠は五十五才で歿している。

一六〇〇年(慶長五)関ヶ原の合戦、政治は徳川時代となり一変し嚴重なキリシタン禁教令の発令となつてい。大村純忠の跡をうけた大村豊明は徳川氏に従い一六〇三年(慶長八)大村(長崎)領内にキリシタン禁教令を発すると共に領内に於ける社寺の復興が始まっている。

この波に乗つて諏訪神社の青木賢清も長崎の街に来たのであつたが、当時の街中の様子はポルトガル船の入航や教会も残つており、信者の人達も多く街は大いに混乱していたと記してある。

諏訪神社の「おくんち」が最初に行われたのは寛永十一年(一六三四)九月七日、九日であつたと諸書に記してある。

### 二、今年の踊町

長崎くんち奉納踊変遷の事については、最近、発刊された大田由紀女

史の『長崎くんち考』(長崎文献社)を一読されておかれるとよい。

本年の踊町は、平成二十一年奉納された六ヶ町と同様、次の六ヶ町である。

一、今籠町 この町は寛永初年頃(二六二四)本籠町に対して新らしく今籠町として創立されたという。当時、竹籠は御朱印船・唐船等の荷造用品として多く必要があり、本籠町に続いて新らしく開かれた町であるという。

傘鉾の飾物には荒波の中に立つ巖上に翼ひろげた荒鷲が立っている。輪は当然、町名に因んで竹籠である。当町と鷲の因縁については次のように伝えられている。

この町には大音寺・大光寺・発心寺・崇福寺・南光寺(庵寺)と一ヶ町に五ヶ寺があるというのは、佛縁ふかき町内であり、御釈迦様は靈鷲山に住しておられるので鷲を、荒波を渡つて之の町にこられたので荒波を配し、垂れは亀甲紋を織出しています。奉納踊は今年では唯一の「本踊」を奉納される由。

一、元船町 町名が示しているように元船町は長崎西奉行所の下に開かれた長崎第一の船つき場であり大波止と呼ばれてきた。その大波止自慢の物と言え、江戸時代より「我が国最大の鉄砲玉」と言われてきた鉄製の弾丸である。傘鉾の飾には其の鉄砲弾を中心に、長崎の港は「鶴の港」と呼ばれてきたので二羽の鶴が左右に配されている。奉納踊は、その昔、大波止には多くの唐人船が来船していたので、其れに因んで「唐人船」が町内子供衆の先引もあつて登場してくる。

一、上町は旧東中町と旧東上町の大半が戦後再編成され発足した町である。傘鉾は旧東上町の物で使用されている。傘鉾の飾は両町共に諏訪社玉園の森のすぐ近くにある事により中央に榊を置き諏訪社をあらわし前に八ツ脚を置き其の上に御神事用の烏帽子・神楽鈴を置き、諏訪社縁記を記した巻物を配し「垂れ」には五色紋縹子を用いた実に厳かな傘鉾である。奉納踊は今回は長崎評判の「コッコデショ」を奉納される由。大変たのしみである。

一、筑後町 旧下筑後町と旧西上町の一部を中心に戦後編成された町であるが、此の地区は多く原爆の災害を受け、町の編成には大変な御苦労があつたとお聞きしている。そして再び、長崎くんち奉納踊に参加されたは昭和四十八年からであつたとお聞きしている。勿論：傘鉾は焼失し

てしまったので、旧両町の傘鉾の思いを乗せて新らしく創造されたそうである。飾物には御神木を中心に御神鏡、曲玉、草薙の剣の三宝が配されている。奉納踊は之も長崎名物の一つ龍踊だそうですが、今回は三匹の龍が月の光を求めて大いに乱舞するのだとお聞きした。それで町内子供達をはじめ多くの人達の参加もあり町内世話方は大変との由でした。

### 一、鍛冶屋町

本町は大正二年、今鍛冶屋町と出来鍛冶屋町が合屏、現在の鍛冶屋町となつた。この時、傘鉾の飾は出来かじや町の「三條小鍛冶宗近物語」を主題にしたカラクリ細工、幕と奉納踊は今かじや町の「七福神」が使用され、この奉納踊の七福神は宝船に乗つておられる。「めでたし、めでたし」と「長崎くんち評判の物」である。

### 一、油屋町

この町のすぐ横には浜町があり、玉帯川・思案橋があり、昔は唐船持ち渡りの油類や貿易品を扱う商家が多かつた。幕末の頃、その中の一人に有名な「大浦ケイ」がいた。明治政府となつた時、当時の高名な人達より「ケイさんには大変お世話になつた」と東京に呼ばれた。其の帰路、ケイは京都に立ち寄り、油屋町の人達の土産にと造らせたのが当町の傘鉾であると先輩方よりお聞きした事がある。実に厳かな傘鉾である。奉納踊は玉帯川に因んで町内子供達、町内の皆様の御協力のもと、実に楽しい賑やかな川船の奉納がある。

### 風信

一、九月二日は本木昌造翁の法要が恒例の如く県印刷工業組合、本木昌造顕彰会共催にて大光寺にて開催通知あり、本木翁は長崎近代文化発祥の人であり、本会とも関係ふかく、出席。

一、九月五日(月)より、本年度第二期学習講座を前期同様の日程にて再開いたしましたので御自由に御参加下さい。(会費不要・資料代各自)

一、長崎学講座(毎週月曜・午前十時半より)。一、水曜懇話会(毎週水曜・午後一時半より)。一、古文書を読む会(六日(火)・二十日(火)午前十時半より)。一、長崎食文化サークル(九日(金)・二十三日(金)午後二時より)。

一、九月二八日、中華人民共和国駐長崎総領事館より「中華人民共和国成立六七周年記念式典を開催するので出席下さるよう」と御案内状を戴く。一、長崎伝統芸能(長崎くんち)振興会より、今年も公会堂前広場での「長崎くんち」夕べの解説依頼あり。出席する事に致しました。

